

和歌山県内経済情勢報告

(平成30年1月判断)

1. 総論 「県内経済は、持ち直している」(判断を据え置き)

【総括判断】

項目	前回(29年10月判断)	今回(30年1月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 30年1月判断は、前回29年10月判断以降、30年1月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は緩やかに回復しており、雇用情勢は改善している。

【各項目の判断】

項目	前回(29年10月判断)	今回(30年1月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
雇用情勢	改善している	改善している	→
設備投資	29年度は前年を下回る計画	29年度は前年を下回る計画	→
企業収益	29年度は増益見通し	29年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用環境等の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、県内経済は回復への動きが期待される。ただし、海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響について留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ **個人消費** 「緩やかに持ち直している」

百貨店・スーパーは、身の回り品などが好調となっているが、天候等の影響により食料品はやや弱い動きとなっている。

コンビニエンスストアは、カウンター商品などが好調となっていることや、ドラッグストアは、菓子や冷凍食品などの食料品が好調となっている。

乗用車販売は、新型車投入効果などから軽自動車は好調となっているものの、全体では小型車を中心に弱い動きとなっている。

観光は、主要観光地で宿泊客が増加するなど堅調な動きとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 10月の台風の影響のほか他店（ドラッグストアなど）との競合などから食料品を中心に売上が減少した。なお、畜産品や惣菜などは引き続き好調となっている。また11月以降は持ち直しており、年末年始は高級食材がよく売れるなど好調となっている。（小売業）
- 化粧品やブランド品などを中心に身の回り品は好調だが、衣料品は引き続き弱い動きが続いている。（小売業）
- 気温の低下に伴って中華まんなどのカウンター商品がよく売れているほか、パンやサラダなども好調。（小売業）
- 菓子や冷凍食品など食品の売上が好調。化粧品もよく売れており、売上は前年を上回っている。（小売業）
- 安全機能を高めた新型の軽自動車の売行きが好調。（自動車販売店）
- 10月は台風の影響で宿泊のキャンセルがあったものの、以降は宿泊客数が前年を上回るなど好調。年末年始の宿泊客数や宿泊単価も伸びている。（観光関係団体）

■ **生産活動** 「緩やかに回復している」

はん用機械はやや弱い動きがみられるものの、生産用機械はアジアを中心に海外向けが好調であるなど、機械工業は好調を維持している。また、化学工業は家庭用製品や電子部品向けが好調であることや、鉄鋼業でも自動車や建設資材向けが好調であることから、全体としては緩やかに回復している。

(主なヒアリング結果)

- アジアを中心に海外向けの受注が好調。新工場が稼働し生産量を増強しておりフル稼働の状況。（機械工業）
- 家庭用製品を中心に受注が好調で、生産を増やして対応している。（化学工業）
- 自動車関連の受注が好調であるほか、建設資材向けの受注も堅調に推移している。（鉄鋼業）

■ **雇用情勢** 「改善している」

有効求人倍率は1倍を超え、高水準で推移している。また、新規求人数も増加傾向にあるなど、雇用情勢は改善している。

(主なヒアリング結果)

- 事業拡大により人手が不足している。特に技術系職員が不足しており、求人サイトなどのほか派遣会社等も活用し募集しているが集まらない。（金属）
- 時給を上げたり求人広告の媒体を増やしたりしているが、パート、アルバイトが十分に確保できない。（小売業）
- 現場監督者が不足しており、受注機会の減少に繋がっている。（建設業）

■ **設備投資** 「29年度は前年を下回る計画」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年10~12月期

法人企業景気予測調査(29年10~12月期調査)でみると、29年度通期の設備投資は、全産業で前年を下回る計画となっている。産業別では、製造業で前年を上回る計画となっているものの、非製造業では前年を下回る計画となっている。

■ **企業収益** 「29年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」29年10~12月期

法人企業景気予測調査(29年10~12月期調査)でみると、29年度通期の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数(3ヶ月後方移動平均値)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲ともに前年を下回っている。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

前払金保証請負金額(年度累計額)でみると、前年を下回っている。内訳でみると、市町村、独立行政法人等で前年を上回っているものの、国、県で前年を下回っている。

■ **企業倒産** 「倒産件数、負債総額ともに前年を下回る」

倒産件数、負債総額ともに前年を下回っている。

■ **景況判断** 「「上昇」超となっている」

法人企業景気予測調査(29年10~12月期調査)の景況判断BSIでみると、全産業で「上昇」超となっている。

産業別では、非製造業は「上昇」と「下降」が均衡しているものの、製造業は「上昇」超となっている。

規模別では、中小企業は「下降」超となっているものの、大企業、中堅企業は「上昇」超となっている。